



現代人形研通信

12号 2025年10月

メールマガジンをお送りしているアドレスは送信専用です。事務局へのご連絡は member.gendainingyo@gmail.com へお送りください。

contents

- ・現代人形研からのお知らせ
- ・インフォメーション

- ・特集 辻村寿三郎の人形を追って ―広島県三次市―
辻村寿三郎人形館訪問記
二代目 辻村寿三郎（川崎員奥）インタビュー
取材・文 羽関チエコ

- ・展覧会レポート

今号はおやすみいたします。

- ・徒然コラム
青の羊



辻村寿三郎人形館（広島県三次市）

現代人形研からのお知らせ

「人形研展」 募集終了

当会が初めて取り組む公募展「人形研展」への出品応募は10月13日に締め切り、全国から108点の応募がありました。技法も素材もさまざまで、人形の表現のひろがりを感じる展示となりそうです。

11月12日を目処に申込者の方に書類審査を発送いたします。

本審査は12月13日～20日（月曜休館を除く）の展示期間中に各審査員の方が会場を訪れ審査。最終日に結果発表と授賞式をおこないます。

会期中にギャラリートークなどのイベントを予定していますが10月25日現在で確定していません。

確定したら、出品者全員にお知らせするほか、現代人形文化研究会の会員メーリングリスト（メールアドレスを登録している方）、Instagramなどでお知らせいたします。

人形研展専用サイト <https://www.gendainingyo.com/koubo>

※ボランティア協力をお願い

大きな会場での展示で、引き続き会員の方のお手伝いを必要としています。特に搬入、搬出のお手伝いが不足しております。ご協力いただける方は事務局までお知らせ下さい。

【募集スタッフ】

「搬入（12/12・金）、搬出（12/20・土）のお手伝い」「会場受付・監視など（12/13～12/20 *12/15は休館日）」のお手伝いを募集します。

スタッフに登録できる方は、下記までご一報ください。

メール member.gendainingyo@gmail.com 電話 042-395-7547

勉強会のお知らせ

読書会『今日の人形』を読む

『今日の人形』（昭和34年 日本経済新聞社発行 編者 近代人形美術会）は、今の私たちにも共通する問題提起があり、この書を通して現代の人形を見直してみたいと思います。参加者による発表もあります。現在、8名の参加者で毎回4～5ページを読み進めています。関心がある方はお気軽に下記までご連絡ください。

進行役 榊山裕子

第5回 11月20日（木）20:00～22:00

12月は「人形研展」開催中につき、お休みをします。展示会期中にオフ会を予定しています。関心のある方は下記連絡先までお知らせください。

※原則的に毎月ZOOMにて開催予定です。

会費 無料

用意するもの 特になし 『今日の人形』をもし入手できればお勧めします。古書なので、できない方は毎回扱うページのPDFを閲覧できるようにします。

参加資格 当会の賛助会員・正会員 ZOOMに接続できること

申込み方法 下記まで

メール member.gendainingyo@gmail.com までお申込ください。ZOOMの招待メールを送ります。

前日まで受け付けますが、勉強会で読むページは事前に読むようにしておいてください。

※『今日の人形』の価格は1000～3000円台で古書店で扱われています。

参考 「日本の古本屋」サイト <https://www.kosho.or.jp/>

※途中から参加ご希望の方には過去録画のURLをお送りします。

年会誌の発行について

『人形と現代 現代人形文化研究会年会誌』を制作中です。一年間の通信のまとめや投稿記事を掲載します。正会員の方には1部ずつお送りします。賛助会員の方は別途、ネット書店で購入いただくかたちでのご提供となります。年内発行を予定しており、詳細は次号でお知らせできる見込みです。

編集委員募集

当会編集委員会では、編集委員を募集しています。賛助会員、正会員のどちらでも、通信の編集に関心のある方はお申し出ください。原稿依頼、整理、デザイン、企画など、できる時間・範囲で関わっていただければ助かります。

条件 メールで連絡のやりとりが出来る方、関心のある方は事務局まで、ご一報ください。

インフォメーション

展覧会情報

ドールアニマルウィンターフェスティバル

11月15日(土) 13:00～17:00

★前売券の先行入場チケット(1500円)をお持ちの方は11:30より入場。入場ルール詳細 http://dwf.d.dooco.jp/dwl/l_index.html

会場 東京都産業貿易センター浜松町館4階

※当会も参加します。 ブース No.G-8

人形研展

12月13日(土)～20日(土) 月曜休館 入場無料

10:00→17:00(入場は16:30まで) 最終日入場13:30まで/閉場14:00

受賞発表 12月20日

東京都美術館 ロビー階 第4展示室

東京都台東区上野公園 8-36 TEL 03-3823-6921

主催 特定非営利活動法人現代人形文化研究会



第5回 My・クリエイティブドール展

12月17日(水)～12月21日(日) 11:00～19:00(最終日は16時30分まで)

会場 横浜みなとみらいギャラリー

横浜西区みなとみらい2-3-5 クイーンズスクエア横浜 クイーンモール2階

主催 有限会社ミワドール

公募作品の展示/招待作家 稲邊智津子 浦野由美 En 大竹京 榎木カヤコ 川崎裕子 木村桜子 黒川早恵美 清水真理

理 粧順 高橋操 戸田和子 宮長由紀 三輪輝子



My・クリエイティブドール展 三輪輝子

募集

第11回ドールアート展 2026 全国創作人形コンクール 2026

会期 4月18日(土)～25日(土)

会場 MAX ふくしま 4階「A・O・Z(アオウゼ)」特設会場

募集要項配布中 / 申込み受付 12/1～1/31 写真送付 2月末〆切

特別大賞 1名 50万円(文部科学大臣賞/申請中)

大賞 1名 20万円/準大賞 1名 10万円/入賞 8名 5万円

審査料 一次審査 3,000円(1作品) 二次審査 7,000円(1作品)

詳細 URL(諸案内、様式ダウンロードもこちらから) https://l-pupe.net/news_event_info/ootake-kyo/604/

主催: ドールアート展 2026in うつくしま実行委員会

問い合わせ ドールアート実行委員会 FAX:024-522-1305 <https://l-pupe.net>

その他

当会理事長出演番組

「人形と手仕事は世界をつなぐ FANTANIMA! とスラブの作家たち」

インターネット番組「ゲンロンカフェ シラスの上田洋子のロシア語で旅する世界Y P A!」に、理事長の羽関チエコが出演しました。羽関の人形との関わりに絡み人形の歴史の話や当会の紹介、スラブの作家たちとの関わりを話しました。聞き手の上田洋子さんはロシア文学や演劇を専門とし、現在ゲンロンの社長をされています。ロシアをはじめとする情勢に詳しく、4時間にもわたる収録となりました。インターネットでどなたでも視聴できます。

冒頭無料視聴可(30分) 本編(約4時間) 購入1485円

<https://shirasu.io/t/genron/c/ura/p/20251014174247>

ゲンロンカフェ シラス



辻村寿三郎の人形を追って

—広島県三次市—

辻村寿三郎人形館訪問記

木綿兎・二代目辻村寿三郎（川崎員奥）インタビュー

取材・文 羽関チエコ

昭和の創作人形が工芸的な表現の彼方を目指し始めた 1960 年代、辻村寿三郎は糸引きの技法による布人形で「現代人形美術展」で頭角を現し、70 年代には NHK 連続テレビ人形劇「新八犬伝」で全国に名を知られる作家となった。寿三郎の人形たちは大胆で繊細で豊かな情感を持ち、縮緬を使ったり糸引き人形の技法で人形を制作する作家たちで寿三郎の影響を受けなかった者はいないだろう。彼は全国各地の人形展、舞台衣裳や美術、着物デザイン、人形舞など多岐にわたり活躍し、1996 年（平成 8 年）には東京の人形町にアトリエ「ジュサブロー館」を構え、来訪者には惜しみなく制作技術を公開した。

2013 年には広島県三次市に作品を常設展示する「辻村寿三郎人形館」が開館した。2015 年にはアトリエを閉鎖し三次に移転するという話は伝わってきたが、辻村本人の消息は 2023 年に他界するまで関係者に知らされないで来た。

現在、三次市の「辻村寿三郎人形館」から歩いて 10 分ほどの距離にある「木綿兎（もめんとう）」で、二代目辻村寿三郎を襲名した川崎員奥氏が人形館の作品の管理や辻村氏の技法を伝える教室を開催している。

このたび三次市を訪れたことで、「辻村寿三郎人形館」で久しく目にすることがなかった辻村寿三郎作品を堪能し、「木綿兎」で川崎氏の話の伺いながら空白となっていた時間を多少なりとも埋めることができた。

（文中敬称略 取材・文 羽関チエコ）



「麒麟獅子廓の寿」2009 年

辻村寿三郎人形館訪問記

開館まで

辻村寿三郎人形館がある広島県三次市へは、広島駅からは JR 芸備線か高速バスで 1 時間半ほどの時間を要する。石見（いわみ）銀山街道などいくつかの街道が交差する三次市は、江戸時代から宿場町として栄え活気に溢れていた。その歴史を感じさせる商家が並ぶ通りに辻村寿三郎人形館がある。三次銀行の本店として昭和 2 年に竣工したアールデコ風の内装の建物は、1981 年からは三次市歴史民俗資料館として利用されていた。そして 2013 年には 2 階を歴史民俗資料館とし、1 階に辻村寿三郎人形館が開設されたのである。





人形館内観



左「アフリカの少年」1965年 右「ヒロシマより心をこめて」1965年

三次市と寿三郎

辻村寿三郎は昭和20年（1945年）12才の年から昭和33年（1958年）22才までの時間を、この三次市で過ごした。三次市は養母、辻村小常の故郷である。

満州で生まれ辻村家の養子となった寿三郎は昭和19年（1944年）に養母と帰国し、一度落ち着いた広島市からすぐに三次市に移った。それぞれのタイミングで寿三郎が内地に戻りたい、三次に帰りたいと養母に駄々をこねた故のことだったが、結果として満州引き上げの混乱や広島原爆投下を免れることとなった話は『人形曼荼羅 自伝随想』で紹介されている。

辻村によれば三次は町ぐるみで芝居好き、お祭り好きで、町には三次劇場があり、上方歌舞伎から新劇の劇団、旅回りの一座までが上演した。自分を芝居狂いというくらいの、辻村の芝居への憧れはこの町で育まれていった。最初は役者志望だった辻村は、自分が作る人形と一体になり、ひとつの役柄を演じ芝居への思いを果たそうとしたのかもしれないと先述の自伝で述懐する。三次市では人形館開館の前に3回、辻村寿三郎展を開催している。

展示の様子

館内に入ると、あの「ヒロシマより心をこめて」に出迎えられた。辻村寿三郎人形館ではNHKテレビで放送された「真田十勇士」や、辻村が2009年に三次市で人形展を開催した時に制作した「麒麟獅子廓の寿」を収蔵コレクションとし展示している。

企画展示はアトリエ・ジュサブローが保有する作品を半年を目安に展示替えする。アトリエ・ジュサブローは、人形町にあったジュサブロー館の半分強を展示のために保有管理している。

辻村が好んだというアールデコ風のデザインの内装は、その作品にもよく調和している。筆者が訪問したと



「血染めの崇徳上皇」2010 年



「仁和寺重仁のわかれ」2010 年



「地獄門」2011 年

きの企画展は「崇徳上皇 怨霊伝説 第一部」だった。平成 22 年（2010 年）に平家物語を題材に制作された人形のシリーズから、今回は保元の乱を中心にした構成。後白河天皇に敗れ讃岐に配流された崇徳院が、舌を噛みきった血で経文の写本に呪いの言葉を書き込んだシーンを描いた鬼気迫る人形がポスターに使われている。実際の人形は 3 ～ 40cm 大ほどだが、怒りに狂う凄味に思わず舞台の情景が眼前に浮かび上がるようだ。周囲にその物語に連なる関連人物の人形が展示されている。

辻村が三次にいた時代、中学では演劇部で、卒業してからは演劇サークルをつくり脚本から美術、演出、俳優と何でもこなしたという。改めて展示を見ると、辻村寿三郎は人形を通して舞台を作り上げ、それぞれのキャラクターを演じていたのだろうと思った。

だからこそであろう、個々の人形それぞれの背景が感じられる。往事のデパートなどでの人形展に比べると点数は少ないが、かえって一点一点をじっくり鑑賞し、その仕事を目に焼き付けることができる。人形そのものから感じる質感、情感、技や迫力は、実際に目で見ないと体験できない。画像を撮影できても、実物の存在感はとても再現できない。これだけの人形を作った人が現世にいないことを考えると、こうやって常設館があることは本当にありがたいことだ。足をのばせばまた見に来られる。

なお、1 階の人形館奥には金庫室を改造した展示室に地元の郷土人形、三次人形が陳列されている。土人形としては大きめの 30cm くらいのもので、商店街の随所のウィンドウでもこの人形が飾られている。人形を愛でる人々の土地で辻村寿三郎の人形が静かに守られていると感じた。



「三条姉小路阿波の局」2011年



「十二支菩薩」1999年



NHK 連続テレビ人形劇で使われた人形 左端は「新八犬伝」の「伏姫」 右3体は「真田十勇士」の人形



「三次人形」元金庫室であった部屋で展示されている。

辻村寿三郎人形館

〒728-0021 広島県三次市三次町1 2 3 6

TEL 0824-64-1036

休館日 毎週水曜（水曜が祝・振替休日の場合は翌平日が休館）

【その他の休館日】年末年始／展示替え休館

午前10:00～午後5:00 入館は午後4:30まで

URL <https://jyusaburo-museum.com/>

二代目 辻村寿三郎（川崎員奥）インタビュー —木綿兎（もめんと）にて—



二代目辻村寿三郎（川崎員奥）
木綿兎（もめんと）にて

広島県出身の川崎員奥氏は 40 才まで京都で池坊の華道家として活動した。1991 年に池坊の講師として上京し、辻村寿三郎と出会う。それまで辻村の人形を知ることもなかったが、同郷のよしみでアトリエに出入りするうち、多忙な辻村の仕事を手伝うようになり、東京・人形町にあったジュサブロー館の開設にも関わった。辻村のそばで人形制作も始め、教室の助手も務めた。人形舞も競演するようになった。ジュサブロー館では花具楽（はなぐら）として花の教室も開催した。ジュサブロー館が経営危機に陥ったときも、川崎氏は辻村を支え続けた。

ジュサブロー館は 2015 年に閉館を予定していたが、その年に辻村が倒れた。同年、東京から三次に移動し、2023 年 2 月に三次の病院で他界するまで、川崎氏が中心になり館を閉じ転居を済ませ、寝たきりになった辻村の一切の面倒をみた。倒れてからの状況が関係者に伝えられなかったのは、生前から辻村が「入院することになったら誰も面会はさせないように」と言われていたからだという。辻村の存命中、寿三郎の人形を伝えるために周囲から強く希望され、川崎は二代目辻村寿三郎を継ぎ襲名披露を三次で行った。初代を見送ってからは、川崎は二代目として三次の地に開いた工房「木綿兎」を拠点に、辻村の人形を守りその仕事を伝える仕事に励んでいる。

東京から三次へ

辻村には東京にいたころから三次へのお誘いがあった、最初は断っていました。でも年をとると辻村も舞台のような大きい仕事ができなくなるし、人形を作る以外ではできなくなるから、三次でのんびりするの也不错かと 2015 年 11 月に引っ越す予定となりました。その間も半年に一回は辻村は人形館の展示の入替のために三次に来ていました。

こちらに移る話が決まってからは人形をこっちに送り、ジュサブロー館を空っぽにして、店を閉める段取りをしていたのです。が、辻村は 2015 年 8 月にくも膜下で倒れ、聖路加病院に 4 ヶ月入院。それから大田区の病院に 2 ヶ月くらい、広島の病院 1 ヶ月半くらいと転院し、そのあいだは私は女房と交替で辻村のそばにいて、東京の住まいやジュサブロー館を片付けて、全部終了した 2016 年 4 月 2 日に三次の病院に直行しました。辻村は元気なときから、自分が病院に入ることになったら面会は絶対しないと言っていたので、東京でお世話になった方に挨拶もしないまま来てしまいました。

三次に来てもずっと病院で、人形館へはリハビリを兼ねて車椅子で連れて行ったりしたけど、喋ったり体を動かすことはできなかった。（木綿兎の）この部屋をジュサブロー館にあったような辻村の工房にしようと直したけど、結局ここに入ることはなかったんです。

東京で元気なときに辻村は、もう思い残すことは何もない、東京で自由気ままに好きなことは全部やってきたからと言っていた。それがせめてもの救いです。



初代の工房となる予定だった手前の窓には人形町のジュサブロー館で使用していた色ガラスが使われてて往時が偲ばれる。

「雪」初代辻村寿三郎 2015 年
辻村 82 才のときに作った最後の人形。武原はんを描いた。
着物地は古いものではなく、舞台衣装に使った白スプレーをかけている。
その技法は人形には使うことはなかったという。



森羅万象のなかで

倒れてからコロナになるまでは毎日、病院で 1 日 7 ～ 8 時間はずっと辻村のそばにいた。辻村は寝たきりだけど目は動くから、話しかけると目はこちらを向いてくれる。嬉しい悲しいの表情はないけれど、耳は死ぬまで聞こえているとお医者さんに言われて、話しかけた。

ここに来た頃は東京に帰りたいとも思った。死のうかと思ったこともある。でも、ジュサブロー館のときのお弟子さんが遠くから来て励ましてくれて、ここで頑張らなきゃと。

辻村はいつも、森羅万象の自然がいいと言っていた。この三次は森羅万象。水墨画で遠くの山から水が流れてくる。そこに釣り糸をたれるような人間になりたいと辻村は言っていたんです。水墨画では静の部分しか見えないけど、自然では嵐があり、大雨が降る。釣り人が自然の厳しさのなかで、静かに穏やかに生きるという心境。三次の森羅万象のなかで静かに暮らしていけるのはありがたいことだと思って、幸せに日々を暮らさせていたでいる。そう思えるようになったのは辻村のおかげです。

二代目の襲名

三次に来た時から襲名のお話はあったんだけど、私は辻村と比べれば月とすっぽんだからとても二代目なんかできないと、ずっとお断りしていたの。でも三次市の方や広島県の知事がここまで来られて、応援するから二代目を継いでくださいと言って下さって、辻村の名前を残すためにもやらなければいけないのかと決心し、2021 年に襲名しました。三次市や広島県もバックアップして下さい、三次市民ホールで満席状態で襲名披露公演をさせていただきました。

私がちゃんとしてから辻村が息をひきとったのは、辻村が最後まで見守ってくれたのかなと。だからここで頑張って人形教室をしながら、毎月、人形館や何カ所かで辻村がやっていたようなお話をして。心と技とか、人形の話をしたり、辻村の思い出をしゃべったり、人形舞をしたり、歌を歌ったり。一人三役しなきゃならない。以前は辻村が人形を舞って私は歌を歌うだけだったのに……。

今は人形の様式、形態も変わってきてる。私は辻村の名前は継いでも、まだ辻村にほど遠い。まだまだ自分の創作よりも、辻村の作品を追いかけるのが精一杯。でもとにかく辻村の思いを伝えたいという気持ちがあります。

辻村が倒れてから7年半は本当は駄目な状態だったんだけど、不思議なことにしっかりしてきてくれた。自分がちゃんとするまで生きていてくれたのかと感謝しているんです。



「花魁」 二代目辻村寿三郎

人形に育てられる

辻村は私にとって命の恩人です。人形を通して人に感謝する気持ちを持てる人間に育ててくれた人です。私は辻村の仕事を手伝う前は、池坊で家元の秘書として全国の支部長さんとわたりあって仕事していました。でも辻村と一緒に仕事をして人形を作り出すと、辻村に「おまえは無知蒙昧だね」と言われた。辻村にはすごい才能の人と憧れを持っていたけど、その時はちょっとムツときた。それが10年くらいして「少しわかってきたね」と。20年たって「おまえもようやくわかってきたね」と言ってくれた。今、私が77になって、辻村が言ってくれたことはこういうことだったんだなというのがわかる。人形を作るというのは、すっぽんぽんで立っているのと一緒に。勉強ができる、仕事ができるということじゃなくて、人の生き方がいかに大事かということを勉強しなさいと言ってくれていたんだなと、それを教えてくれた辻村に毎日感謝の日々です。辻村からはよく「人形は作る人の思いが全部でるんだから。着物着せて飾ったっておまえが素っ裸で立っているのと一緒に。おまえの人形は創作人形なんだから、真似て作る必要はない」と言われました。辻村の好んでいたテーマを外さないで自分なりになんとか表現できたらと思います。でも、今でも人形館に行ったら、ゾクゾクっとするというか、今まで感じてなかったことが伝わってくる。ときどき、私の作ったものも一緒に飾らせてもらいますが、並べたら本当に恥ずかしいんだけど、辻村の心や技はお弟子さんに受け継がれてほしいと思います。

三次で人形を守る

辻村は「人形は消耗品」というの。これは辻村の本にも書いてあって、死んだら人形は全部焼いてくれと、物に執着しない人でした。テレビでタレントが何も分からずに作品を解説する番組を辻村はすごく厭がっていた。作者の心なんて誰にもわからないって。わからない人ほど講釈を言いたがるって。だから人形は燃やしてほしいって。でも私にはそれはできない。辻村の人形を残し、心と技を伝えていきたいと思っています。



初代の作りかけの人形

「これはそのまま大事に人の目に触れて残すようにしています。ここでは辻村のやりかたをきっちり守って伝えています。」(二代目)

ジュサブロー館には人形が300点くらいありました。今はその半分以上をアトリエ・ジュサブローがここで管理し、全部リストにしたものを人形館にも渡しています。

私が三次に来てから小さな花魁を作っているときに、帯をどうしようとか考えてたら、夢に辻村と出来上がった人形が出てきて、辻村が帯地はこの生地っていうの。それで翌朝、ここで生地をあちこち、よく調べたらそれが出てきた。不思議でした。ああいう状態でいても、私を無言で指導してくれているんだと思った。

だから私は辻村は亡くなくても上から見守ってくれていて、公演会でも上から降りてきて一緒に舞うんですよと、言っています。辻村はいないけどいるのと一緒に。辻村に感謝してここにも写真をいっぱい貼っているんですよ。そうやって育ててくれた辻村を、皆さんに一番知ってほしいんです。



木綿兎に佇む人形舞の出番を待つ人形。初代寿三郎作。
木綿兎では初代と二代目の作品が展示されている。

参考資料

ウェブサイト

ジュサブロー館 <http://www.jusaburo.net/>

辻村寿三郎人形館 <https://jyusaburo-museum.com/>

書籍など

『人形曼荼羅 自伝随想』辻村ジュサブロー（1978年）

『人形師 辻村ジュサブロー』アトリエ・ジュサブロー 一般社団法人 寿三郎みよし（2018年）



information

・2026年秋に埼玉県岩槻人形博物館で辻村寿三郎人形展を開催する計画が進んでいる。

4～50点を出品予定。

・取材時に録画した人形舞の動画をこちらからご覧になれます。

https://youtu.be/KKu9ru4c-_A?si=ZU-gklqHB1Yuql3m



木綿兎（もめんと）は酒蔵の建屋を改装した二代目辻村寿三郎の工房。辻村寿三郎人形館から徒歩10分ほどの場所にある。教室や人形、小物の展示販売も行っている。

〒728-0021 広島県三次市三次町1584-1

TEL 090-4121-7599 10:00～16:30 水曜定休

取材後記

今年は初代辻村寿三郎の三回忌だったという。初代辻村寿三郎の存命中、その人形に影響を受けた作り手は枚挙にいとまがないだろう。生前の初代辻村寿三郎は弟子を取らないことで知られていた。だから人形町の「ジュサブロー館」では、人形制作を間近に見られるように公開し、客からの技術的な質問に何でも気さくに答え、記念撮影にも応じていた。才能を隠したり守らなくてもいい達人の境地にあってこそ、できたことだと思う。

2012年からはファンからの要望を受け人形制作教室を開催、助手とともに自ら40人ほどの生徒を指導したという。だから唯一の弟子を名乗れる人はいない。

筆者が生前に辻村作品の模倣が増えたことを尋ねたとき、「本当によくできている人形があるけど、自分の下着の裏まで見られているようだ」と話していた。

初代の人形が残ればその影響を与え続けるだろうが、二代目は敢えて初代の仕事を残すことに尽力している。初代にとっては不本意かもしれないが、その心と技を静かに伝える人形は、創作人形に関わる私たちにとって道標のように必要なものだ。初代作品を深く見ていけば、見るべきものは表層ではなく、その奥にある先代の心意気だということに気付くはずだ。

多くの人にとって宝である初代作品を守り展示してくれる三次市と二代目の功績に、筆者を今の仕事に引き込んだ辻村寿三郎の一ファンとしても深い感謝の思いを感じている。（羽関）

徒然コラム

植物や虫、そして鳥たち

青の羊

久しぶりの寄稿になってしまいました！10月に入っても暑かったですね。
ようやく涼しくなってホッとしています。

面白い話は特になのですが、職場が変わって5年目。早いもので今さらですが驚いています。
職場はなかなか辛い労働なので、青の羊としての活動もまだあまり出来ていません。
でも気付きも多く、精神的には充実しながら何とか続けられています。

職場は嬉しいことに自然に囲まれた環境で、植物や虫、鳥達と触れ合う機会が多いこともあり、変な話ですがこの場所では、生きものの声に耳を澄まし、それを中心に考えるという私的スタイルで仕事をしています。生きもののことを無意識に意識してしまう日常です。

そんななか、気をつけていたのに潰れている虫を見て、自分が仕事に夢中でつい踏んでしまったことに気づいた時は落ち込み、辛いものがあります。それを普段の生活に置き換えて考えると、余計にそう感じます。そんなことが日常茶飯事です。

空中では鳥達の営みも激しいものがあり、気づかされることが多々あります。そして不思議なことも。
そのような環境なので、自分の思考はずいぶん変わったと思います。そして、それが自分の表現などにも影響があり嬉しく思っています。
あと数年は目的のためにこの状態を維持していきたいと思います。それにともない自分も少しずつ変化しているように思います。



東京・新宿区の職場で筆者撮影